

「山梨中銀地方創生ファンド」による投資案件を紹介します

～新技術を活用しインダストリー4.0の実現を目指す企業への投資～

「山梨中銀地方創生ファンド」（正式名称：山梨中銀地方創生投資事業有限責任組合。以下「当ファンド」といいます。無限責任組合員：山梨中銀経営コンサルティング株式会社）は、株式会社光コム（東京都千代田区、代表取締役 福沢博志）に対する投資を行いましたので、お知らせいたします。

1. 投資内容

- (1) 投資日 平成30年3月30日
- (2) 投資額 29,970千円
- (3) 投資形態 第三者割当増資の引受

2. 株式会社光コムの概要

- (1) 設立年月 平成14年4月
- (2) 資本金 1,018百万円（増資後）
- (3) 所在地 東京都千代田区神田三崎町三丁目6番12号
- (4) 代表者 福沢 博志
- (5) 役職員数 24名
- (6) 事業内容 光コム発生器、及び関連機器の開発・製造

- 同社は東京工業大学発のベンチャーとして、平成14年に設立され、光コム（レーザーから発生させた、くし状に光がならんでいる光源）を産業用に応用、実用化している世界唯一の企業です。
- 中小企業基盤整備機構主催の Japan Venture Award2018 にて、中小機構理事長賞を受賞しています。
- 光コムを活用した非接触の検査装置の開発・製造を主に手掛けており、同社製品は容積測定、キズ・打痕などの外観検査、切削不良品等の自動検出を可能としています。
- 同社製品は、①高精度、②高速度、③広範囲の計測が可能なおうえ、外乱光を遮断できることから工場内での使用が可能であるなど、環境適応に優れているという特徴を備えています。これにより、生産ラインで製造した部品等を「ラインから抜き取り、目視検査」していた従来の検査手法から、「ライン内における全品自動検査」への転換を可能にしました。
- 今後は、不良品の発生データを集積し、AIを活用した傾向分析を行うことで、上流工程の改善等へ繋げることを目指します。また、更なるソフト面の機能拡充を図っていく方針です。次世代の非接触測定技術をベースに、日本発のインダストリー4.0（※1）の実現に向け取り組んでいる企業です。

- 現在は、自動車産業を中心とした事業展開を行っており、各社とも高い関心を示しております。大手自動車メーカー、Tier1 企業等との取引も増えており、今後は、各社のグループ内での拡がりや、下請け企業等への浸透が期待されます。
- ファブレス企業（※2）であるため、製品の部品等は国内各地の技術力を有した企業へ外注していることから、同社の成長が、外注先企業の地元経済発展にも繋がるものと考えられます。

（※1）インダストリー4.0 とは、ドイツ政府が推進する製造業のデジタル化、コンピューター化を目指すコンセプト。生産工程や流通工程のデジタル化により、自動化、バーチャル化を高めることで、コスト削減につなげ、生産性を向上させることを主眼にしています。

（※2）ファブレス企業とは、自社で工場を所有せず、製造は他社に任せ、企画・開発・販売のみを自社内で手がける企業。

当ファンドでは、同社の成長可能性に着目するとともに、機械電子工業の集積が高い山梨県内企業とのマッチングにより地域経済の発展に繋がるとの観点から、同社への投資を決定しました。

同社の第三者割当増資の一部を引き受けることで資金面での支援を行うとともに、今後は同社の成長発展に向けて積極的に各種ハンズオン支援を行ってまいります。

<当ファンドについて>

当ファンドは、山梨中央銀行グループの出資により設立した投資ファンドです。

地域の将来を担う事業者の育成を図ることで、地方創生を後押しすることを目的とし、投資先への資金供給だけでなく、山梨中央銀行グループが有する販路開拓や経営管理等の各種支援ノウハウを活用したハンズオン支援を併せて行うことにより、投資先の成長・発展や経営改善・事業再生等の効率的な支援を実施いたします。

以 上